



Takatsuki_daysさん

私たちの生活を便利にしてくれるインターネット。SNSでは、誰かの投稿に対して気軽に「いいね」や「リポスト」ができますが、そのことで傷ついている人がいるかもしれません。意図せず加害者とならないため、私たちが身に付けたいモラルとインターネットリテラシーについて考えます。

#誹謗中傷 #人権侵害 #モラル #インターネットリテラシー #拡散



ID 162380

問合 人権・男女共同参画課／Tel674-7575

176件のリポスト

2345件のいいね

568件のブックマーク



01 知る

インターネットと人権

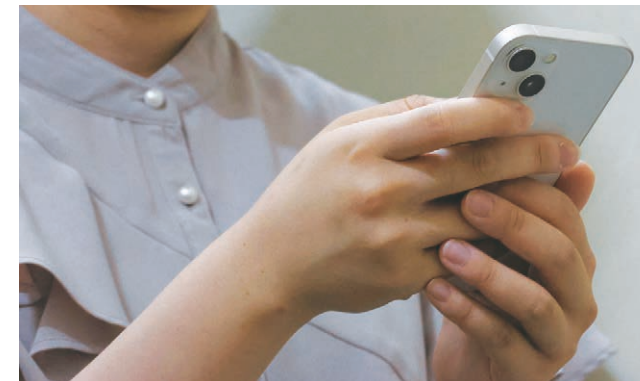
インターネット上のトラブルについて、被害の現状や特性を知りましょう。

インターネット上の誹謗中傷 拡散が続いて社会問題に

令和6年度に府のインターネット上のトラブルに関する相談窓口に寄せられた件数は約400件。10代からシニア層までの幅広い年代が被害に遭っています。相談案件の56.7%が誹謗・中傷に関する相談で、内訳を見ると名誉棄損・侮辱に関する相談が突出して、次にプライバシー情報の暴露に関するトラブルが多く発生しているのが特徴です。

トラブルはこんな所で発生

- ・SNS
- ・ニュースサイトのコメント欄
- ・動画配信サイト
- ・地図アプリのコメント欄
- ・口コミサイト
- など



※いいね…… 投稿に対する関心や好意的な意思を表示させる機能
リポスト …… 他のユーザーの投稿を自分のアカウントに再度表示させる機能

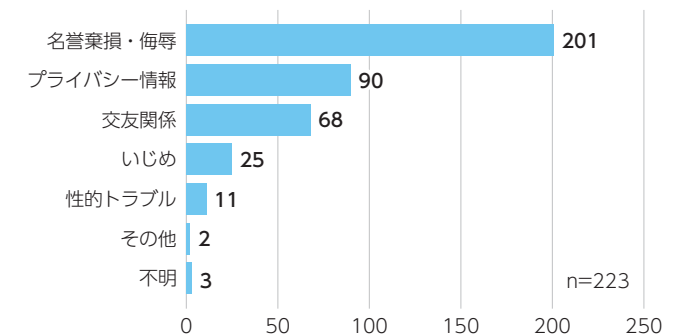
自分の行動には責任が伴う

健全なインターネット環境の整備や被害者救済を目的に、近年、さまざまな関連法が改正され、投稿の削除要請や発信者情報の開示請求などの措置が広がっています。

開示情報を元に、名誉棄損、プライバシーや肖像権の侵害など、被害者から裁判で損害賠償請求を受けることもあります。

また、刑事罰である侮辱罪の厳罰化も進み、逮捕者が出ています。一般社会と同じように、インターネット上であっても自分の行動には責任が伴います。

誹謗・中傷に関する相談の内訳（重複集計あり）



府インターネット誹謗中傷・トラブル相談窓口「ネットハーモニー」(R6年度)

SNSだけでなく、口コミサイトなどに誹謗中傷が書き込まれることもあります。インターネット上で一度拡散された情報を全て削除することは極めて困難であり、深刻な社会問題となっています。

安易に加担していませんか

誹謗中傷を主体的に行うことはもちろん許されませんが、そういった投稿を見て、匿名だからと安易な気持ちで「いいね」や「リポスト」（※）などの行為をしていませんか。

第三者であるあなたにとっては軽い行為であっても、被害者を傷つけ、不確かな情報の拡散につながることがあります。こういった行為に加担しないモラルと情報に惑わされないインターネットリテラシー（適切に活用する知識や能力）が重要です。

法の整備状況

令和4年7月 刑法の侮辱罪が厳罰化

- ・「1年以下の懲役若しくは禁錮若しくは30万円以下の罰金又は拘留若しくは科料」に引き上げ
- ・公訴時効が1年から3年に拡大

令和4年10月 改正プロバイダ責任制限法施行

- ・発信者情報開示のための裁判手続きが簡略化され、発信者の特定が容易に

令和6年5月 情報流通プラットフォーム対処法施行

- ・検索サイトやSNSを運営する大規模プラットフォーム側に対して削除申出窓口の整備などが義務化

02 考える

加害者にならないために

インターネットは使い方次第で、誰もが被害者にも加害者にもなる可能性があります。「無自覚の加害者」にならないために、注意したい行為を知り、相手の気持ちを考えて行動しましょう。

Case1 コメントの書き込み

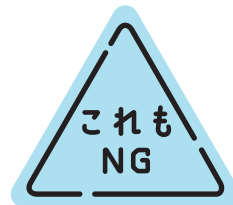
自分で投稿

個人、企業などに対して、悪口や脅迫的な言葉を書き込む行為。たとえ事実を含む内容でも、公の場で名誉を不用意に傷つける行為は罪に問われる可能性も。



第三者の投稿に反応

第三者の誹謗中傷の投稿に対してコメントやいいね、リポストで反応する行為。あなたが投稿に反応することでさらに拡散され、被害者の名誉を傷つけてしまいます。



裁判では、最初に投稿した人だけでなく、拡散した人も訴えられ、損害賠償を請求された事例も。

Case2 個人情報や私生活の暴露

悪意の暴露



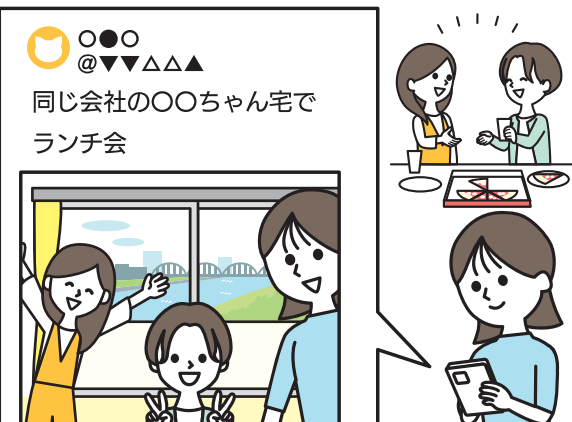
当然NG



住所、氏名、電話番号、勤務先などの個人情報、私生活に関する秘密を無許可で暴露する行為。

悪意なき個人情報の流出

文章や写真から個人が特定される投稿をする行為。家族や友人の住んでいる場所や日常の行動が特定され、ストーカー被害などに発展する可能性も。



どんな行為で拡散されるの？

インターネット上で多用される、右図のようなコミュニケーション。人の名誉を傷つけたり、誹謗中傷行為の拡散に加担したりしないように注意しましょう。



コメント
(投稿)

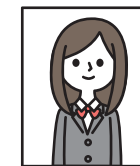


リポスト
(拡散・共有)

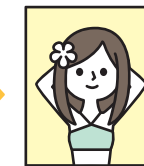


いいね
(賛同・関心)

Case3 偽情報の作成・拡散



画像を生成

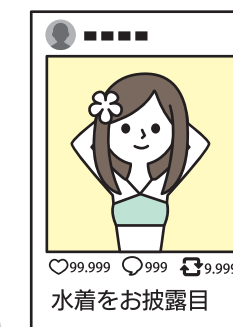


無許可で作成・拡散

生成AIなどを使用し、無許可で新たな写真や動画を作成・拡散する行為。興味本位の行為でも、その人の名誉を傷つけたり、肖像権を侵害する可能性があります。

勘違いして拡散

知らないうちに偽情報の拡散に加担してしまう行為。本人や関係者になりすまして偽情報を投稿している場合もあるので安易に投稿に反応しないことが重要です。



こんな水着、持ってないのに...
偽写真が拡散されてる



行動する前に 誰かを傷つけないか考えよう

個人情報
が
特定される

身近な人にも
被害が及ぶ恐怖

デマ情報が
拡散され続ける

社会的地位
の喪失

耐え難い
秘密の暴露

ネットユーザーが安易な気持ちで行った行為が、被害者に耐え難い苦痛や恐怖を与えていることも。被害者の人生を狂わせ、最悪の場合、自死に至ってしまうほどの加害行為に、意図せず加担してしまっているかもしれません。



03 聞く

ネット上のさまざまな出来事や情報との向き合い方について専門家に話を聞きました

京都府立大学副学長
生命環境科学研究科教授
浅田太郎さん

情報科学の研究者、専門はヒューマンインタフェース。ネットに投稿された言葉を検出し、危険度を判定するネットパトロールシステムの開発者で、現在も京都府との共同研究に携わっている

ネットを傷つけ合う場所にしない

この数年でより身近な社会問題に

インターネット（以下ネット）上の誹謗中傷は、私が研究を始めた10年以上前から存在しますが、この数年でさまざまな変化が起きています。

1点目は「対象の広がり」です。ネット上の誹謗中傷は、以前は著名人などの公の立場にいる人がターゲットにされてきましたが、最近は、一般の人も被害に遭うケースが増えています。

次に「加害者像」です。ネット上では、年齢や性別

を偽ることができるため、前後の投稿から推測した内容になりますが、若年層だけでなく、中高年による誹謗中傷行為が増えています。これは、令和2年以降、コロナがまん延したときに、自宅で過ごす時間が増え、シニア世代にネットやSNSが一気に浸透した影響ではないかと考えられます。

では、なぜ人はネットの世界で、攻撃的になってしまうのでしょうか。これにはネットの「匿名性」が深く関わっていて、心理学では「オンライン脱抑制効果」と呼ばれます。「人は匿名になると感情を制御し

にくくなる」というもので、対面の会話なら、相手の意図を表情や声のトーンなどから読み取ることができますが、ネットはそれができないため、感情に走った攻撃をしてしまうというものです。

拡散数が投稿者のごほうびに

普段何気なくSNSなどを利用していると、誰かの「怒り」の投稿を目にすることも多いのではないのでしょうか。複数の研究により、社会規範から外れた行為を非難する「怒り」を含む投稿は、ユーザーの注目を集めやすい傾向にあることが示されています。また、SNSなどのプラットフォームは、反応が集まる投稿が優先的に表示されるため、拡散に拍車がかかるような仕組みになっていることもポイントです。

特に知ってもらいたいのは、拡散数は、投稿者にとって「ごほうび」の役割を果たすこと。怒りを込めた投稿が多くての反応を集めることを体験した投稿者は「こういう発言は支持されるんだ」と学習し、同じような投稿を繰り返すようになるのです。この悪循環が誹謗中傷がなくなる要因と考えられています。

安易に反応せずまずは傍観

先程の「怒り」を含む投稿以外にも「応援したい」「良かれと思って」という気持ちで、いいねやりポストをしたくなるかもしれませんが、安易に反応することは危険が伴います。

心の中で意見を持つのは自由ですが、まずは傍観しましょう。なぜなら、真偽が不確かな情報でも、広く拡散されることで「多くの人が拡散（支持）している意見は正しい」という錯覚を生んでしまうからです。

拡散されることで、新たな被害者を生む可能性もあります。一人一人の「関わらない意志とモラル」が、誹謗中傷を抑える力となります。

また近年、急速なスピードで生成AIなどの技術が発展し、真偽の見極めが非常に困難になっています。どんな人物や団体の投稿でも「まずは疑う」を実践しましょう。投稿者の主張や画像を信じて、安易に同調してしまうのは危険です。

誤りに気が付いてからでは遅い

投稿やいいねなどをした後に、誤りに気が付き、削除したとしても、誰かに証拠として画面を保存されていることも。個人情報や特定されてしまったり、あなたの思想を誤解されたり、場合によっては誹謗中傷の加害者として損害賠償請求などをされる可能性もあります。

ネットもリアルと同じ社会の一部

ネットは、世界中の人と匿名で自由にコミュニケーションが取れる素晴らしいツールです。この「匿名性」を生かした、建設的な意見や論評は、大いに歓迎されるべきで、匿名であること自体が悪なのではありません。重要なのはどう使うかです。

ほとんどの人がネットを利用する現代。ネットも社会の一部と言えます。傷つけ合う場所にしないために、一人一人がリアルと同じように、ネット上でも他人の人権を尊重することが当たり前の世の中にしていかなければならないと思います。

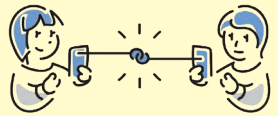
浅田教授に聞きました／

ネット&SNS
上手な付き合い方



Q1. SNSでコメント投稿するときは
どんな言葉選びがいいですか

SNSのコメントは文字だけなので、相手がどう受け取るかを一呼吸置いて考えることが大切です。多少のからかいのつもりでも、SNSでは人格批判と受け取られる可能性も。現実の友達との会話よりも、丁寧に、誤解を防ぐ言葉選びを意識してみてください。



Q2. 写真や動画を投稿するときのポイント

写真や動画は、自分以外の人が写っていることもありますので、承認したユーザーだけが閲覧できる非公開アカウントで投稿することをお勧めします。注意したい三つのポイントを紹介します。

- ポイント1
撮影方法

本人や第三者の顔、名札、表札、車のナンバー、学校名、制服など、特定につながる情報は映さない。スマホのカメラアプリの位置情報もオフにしましょう
- ポイント2
許可確認

撮影の許可だけでなく、SNS投稿も必ず事前に本人に確認を取りましょう
- ポイント3
加工

モザイク加工なども元に戻せる可能性があります。削除したい部分はトリミングしてしまう方が安全です

Q3. 憤りを感じる投稿を目にすると許せない気持ちに。
こんなときはどうしたらいいですか

そのような怒りは、誰にでも湧く自然な感情です。ただ、衝動的に行動するとトラブルに発展する危険も。次の順番で行動してみてください。

- STEP1

画面を閉じて深呼吸。落ち着きましょう
- STEP2

事実確認。誤情報でないか冷静に判断
- STEP3

行動を選択。ミュート設定、記録して通報、静かに離れる
※即時反撃は炎上の燃料になるのでNG

Q4. 生成AIなどにだまされないよう
気を付けることは

生成AI技術は、一般の人が真偽を判断するのは困難。すぐに飛びつかずに、情報の出所や確かな情報源と照合して冷静に判断しましょう。



市役所と虎の写真を生成AIで合成

もし被害に遭ってしまったら

誹謗中傷の被害に遭ってしまったときに、ネット上で即時に加害者に反撃するのは得策ではありません。プラットフォームへの通報や削除要請など、被害者救済措置があります。まずは専門の相談窓口にご相談をしてください。

問合 府インターネット誹謗中傷・トラブル相談窓口「ネットハーモニー」
TEL06-6760-4013

証拠画像などは保存を

削除要請などのために、誹謗中傷の書き込みや動画などが掲載されているサイトのURLやアドレスはメモをとり、該当するコメントの画面や動画は、保存しておきましょう。